

付属 ワークシート 解説編

※この付属ワークシート解説編は、付属ワークシートを使って研修等を行う際の演習の進め方、演習を通して受講者に考えてもらいたいポイントや進め方のヒントとなるような内容を解説しています。学校の実態や研修内容に照らし合わせてご活用ください。

ワークシートを使った講義の流れ（例）

1. 講義①：支援教育リーフレット Vol.3-I 等を使い、教育のユニバーサルデザインについて解説する。
- ↓
2. 演習①：「授業のユニバーサルデザイン」に着目し、現在の取組を振り返る。
- ↓
3. 演習②：日常の事例をもとに、取り入れたい教育のユニバーサルデザインについて、注目した視点をもとに考える。
- ↓
4. 講義②：支援教育リーフレット Vol.3-II 等を使い「個別の配慮」と「個に特化した指導」について解説する。
- ↓
5. 演習③：日常の事例をもとに、「個別の配慮」について具体的に考え、視点を広げる。
- ↓
6. 演習④：チームで考える視点を広げる。
- ↓
7. まとめ：全体を通して大切な視点についてまとめる。

1. 【講義①】リーフレット Vol.3-I 等を参考に、教育のユニバーサルデザインの概要を解説しましょう。

解説1 演習を行う前に、「教育のユニバーサルデザイン」について共有します。

教育に関するユニバーサルデザインについては、統一された定義があるわけではなく、研究者等によってさまざまな考え方があることを押さえましょう。

※このリーフレットでは、「教育のユニバーサルデザイン」（阿部利彦）の考え方を基に「授業のUD」「教育環境のUD」「人的環境のUD」の3つの視点で考えられるよう整理しています。この3つの視点を偏りなく実現していくことが大切です。

解説2 「教育のユニバーサルデザイン」を意識していなくても、日常生活の中で既に取り組んでいる内容も多くあることが予想されます。3つの視点で振り返り、既に取り組んでいること、又は不足していた視点などについて考えるきっかけにできると良いです。

2. 【演習①】日頃の授業において、視覚化・焦点化・共有化の視点を取り入れている場面はありますか。支援教育リーフレット Vol.3-I 「授業のユニバーサルデザイン」を参考に、具体的な取組を記入しましょう。また、これらの視点を取り入れたことで良かったことや、気付いたことも振り返り、共有しましょう。

視覚化

焦点化

共有化

解説3 3つの視点のうち、演習では「授業のUD」にフォーカスして演習を行います。演習の前に「授業のUD」について、リーフレットを使い、簡単に説明しましょう。

解説4 視覚化、焦点化、共有化の視点で、授業を振り返ると、既に行っていることに気付くと考えられます。例えば、「授業の導入では、目標や内容を黒板に記入して視覚化している」など、意識はしていなかったが、改めて考えると行っていた！というように整理していけると良いです。

良かったこと、気付いたこと

解説5 上記の実践によって得た気づき等を自由に記入しましょう。
 記入後には複数人で話し合い、それぞれの受講者が授業の中でどのような工夫を行っているか、またその工夫によって、児童・生徒にどのような変容が見られたかなどを共有することで、「授業のUD」の視点を広げられるようにしましょう。

3.【演習②】次のクラスの様子から、あなたならどこに教育のユニバーサルデザインの視点を取り入れ、より良い環境を整えて学びにつなげていこうと思いますか。支援教育リーフレット Vol.3-I を参考に3つの視点を意識しながら考えてみましょう。その際、注目した視点についても共有してみましょう。

小学校4年1組の様子

活発な子どもが多く、元気のよいクラスです。チャイムが鳴りましたが、立ち歩いている子どもやおしゃべりを続けている子どもがいます。先生が入ってきて、「チャイムが鳴ったらどうするんだっけ？」と言葉を掛けました。子どもたちの反応は様々です。

図工の授業が始まりました。黒板には、今日の目標や使用する材料・用具、手順等がイラストや写真とともに次々に提示されていきます。早く制作に取り掛かりたいのか、子どもたちは落ち着かずキョロキョロと周りを見えています。

10分間の導入を終え、先生が道具を準備するように指示を出しました。道具置き場に殺到する子どもたちがいる中で、「先生、何を準備すればいいの？」と質問してくる子ども、図工の教科書を読みふけている子どももいます。先生は「ちゃんと並ぼう」「わからないことは、周りの子に聞いてみよう」と言葉を掛けています。

制作が始まりました。図工室では大きな作業用机を4人で囲んで座っています。机の上に材料や道具をいっぱい広げて、子どもたちは思い思いに制作を進めています。先生は机を回って個別に言葉掛けをしています。

30分間の制作時間を終え、片付けの時間になりました。子どもたちは、片付けをしながら、お互いの作品を見せ合って楽しそうな様子です。中には、まだ熱心に制作を続けている子どももいます。チャイムが鳴ったので、子どもたちは一旦手を止めて号令となり、授業が終了しました。

取り入れたい教育のユニバーサルデザインの視点

(授業のUD)	(教育環境のUD)	(人的環境のUD)

注目した視点

解説6 この演習では、学校の日常風景の事例から、より良い学びにつなげるためのユニバーサルデザインの取組について考えます。取り入れる際に注目した視点（気になったところや、取り入れることによってねらうこと等）についても考えることがポイントです。

解説7 はじめは個人ワークで考え、その後にグループで共有することで、視点を広げたり深めたりできるようにしましょう。

解説8 ここでは小学校の事例を挙げていますが、校種や学校の状況、オーダーに基づいて、アレンジして活用しましょう。

4.【講義②】支援教育リーフレット Vol.3-II等を参考に、一人ひとりに応える視点の必要性、「個別の配慮」や「個に特化した指導」について解説しましょう。

解説9 4からは、リーフレット Vol. 3-IIを使用します。
解説文の「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童・生徒に関する調査結果」等にも触れ、3-IにあるUDの視点だけでなく「個別の配慮」や「個に特化した指導」についても考えることの重要性について説明しましょう。

5.【演習③】演習②で取り上げたクラスには、「個別の配慮」を必要とする児童も在籍しています。次のAさんについて、演習②で検討した教育のユニバーサルデザインを取り入れた上で、どのような「個別の配慮」が必要か支援教育リーフレット Vol.3-IIを参考に考えてみましょう。

Aさんは、4年1組に在籍する、理科の実験と絵を描くことが好きな男子です。物知りで、自分が納得するまで物事を追求するタイプです。聴覚に過敏性があり、授業によっては耳をふさいだり、廊下に出て行ってしまったりすることがあります。また、授業のねらいがつかめず、自己流で進めてしまうこともあります。そのため、得意な図工の作品を完成できずに終わることもしばしばあります。また、整理整頓が苦手で、物を無くすことや、友達の物を間違えて使ってトラブルになることも多く見られます。その際は、謝るより先に手が出てしまうことがあり、トラブルの理由を聞いても、うまく説明することができません。

Aさんに必要な「個別の配慮」

解説10 演習②では、学級全体に必要となる教育のユニバーサルデザインの視点を考えました。演習③では、教育のユニバーサルデザインによる指導の工夫を行った上で必要となる「個別の配慮」や「個に特化した指導」について考えていきます。

この演習では「個別の配慮」（や「個に特化した指導」）について、具体的に考えることを通し、指導の工夫を行った上でも必要となる視点があることを実感できると良いです。（演習では「個別の配慮」に焦点を当てますが、「個に特化した指導」を含めて視点を広げることも考えられます。）

解説11 教育的ニーズの高い子どもが、必ずしも個に特化した指導を必要としているとは限りません。的確な実態把握を行い、まずは教室の中で適応できるように、様々な個別の配慮について検討しましょう。個々に応じた過不足のない支援を考えることが大切です。

解説12 個人ワーク後に、グループで共有することで、指導や支援の視点を広げられるようにしましょう。

6.【演習④】この演習では、「チームで考える視点を広げる」をテーマに考えます。

演習①～③のように、児童・生徒の指導や支援について考えたり、迷ったりした際に、誰に、どのように相談していますか。チームで取り組んだことや自分の身の回りのチーム体制について振り返ってみましょう。

例：学年の教員、養護教諭、コーディネーター、スクールソーシャルワーカー等

解説 13 演習④では、チームで考える視点を広げます。

この演習では、「一人で悩まない」という点を強調できると良いです。子どもたちのことは、「皆で支える」ことが大切です。同じ学年の教員、養護教諭、Co、SSWなどと相談しながら進め、学校全体で考えていくことの大切さに触れましょう。特別支援学校のセンター的機能について触れることも良いでしょう。

また、ワークの中の「こんな風に相談したら、良い取組につながった」などの好事例を積極的に共有し、「一人で悩まない」ことが大切であることに触れましょう。

7.【まとめ】講義・演習を振り返り、全体を通して大切な視点についてまとめましょう。

解説 14 講義・演習を通して挙げられた気付きや新たな視点を踏まえ、教育のユニバーサルデザインとして「指導の工夫」「個別の配慮」「個に特化した指導」のポイントをまとめましょう。神奈川の支援教育についても触れられると良いでしょう。

教育のユニバーサルデザインは、配慮を必要とする児童・生徒にとっては「ないと困る支援」であり、どの児童・生徒にとっても「あると便利で役立つ支援」になるため「すべての子どもたちがわかる！できる！」につながるということを伝えましょう。

また、クラスや学年単位で行うのではなく、学校全体として「すべての子どもたちがわかる！できる！」の実現に向けた指導や支援を考え、取り組んでいく必要があります。例えば、必要な指導・支援を行うために学校としての体制が不足している場合には、チームとして取り組めることから考えていきましょう。

まずは、教員一人ひとりが、一人で悩まず、抱え込まず、チームで考える視点を持つことが重要であり、できることから始めていけると良いことを伝えましょう。